

実践ちょっと見—4

「You Tube で宿題を配信しよう！～簡単にできる映像教材配信の方法とその取り組みの報告」

発表者 ミッドリーム日本語学校
山田貴彦先生・永塚和英先生

1. 発表内容

You Tube で宿題を映像配信した試みの紹介、その他の動画配信による予習・情報発信の試みについて

2. メリット

- ・宿題・予習については「限定公開」にして学生にだけ配信できる。
- ・You Tube を利用すれば再生回数と再生時間がわかるため、学習管理に便利。
- ・紙媒体に比べ情報量が多い。例)「音読練習」の宿題ではモデルリーディングの映像も提供できる。
- ・繰り返し見返すことができる。
- ・Flipgrid というアプリを利用すると双方向でコメントもできる。
- ・「文型導入動画」などは予習用に送って、自宅学習時すきな時に視聴できる。
- ・入国前の学生やホテル待機中の学生にも配信できる。

(一部は「留チューブ日本語学校 EJU 対策動画」として公開している。)

<https://www.youtube.com/watch?v=HJS8oETBjkE&t=11s>

3. 今後の課題

- ・学習意欲の低い学生にも効果的な宿題を出す工夫が必要。
- ・学習者同士が学び合いのできる仕掛けを作っていく。
- ・学習成果を提出物などから測り、狙い通りの学習が行われているかを確認していく。

4. ZOOM 参加者からの質疑応答より (主なもの)

Q1：著作権に関して気をつけていることはあるか。

A1：公開するものについては市販の教材は使わない。練習用の問題もオリジナルを考えている。限定公開のものについては、教室で使用しているものと同じ教材を使用している。

Q2：「文型導入動画」は反転学習のためか。

A2：予習用であるが、全員が見るまでになっていないため反転学習は行っていない。
欠席者対策としても利用している。

Q3：制作は教務で担当を決めて行っているのか。

A3：現在は発表者の2名が半分業務内に、半分はスキルアップという意味もあり個人的な時間を使って行っている。

5. 所感

- ・パンデミックのおかげで様々なツールを使うチャンスがすぐ目の前にあり、スマホさえあれば誰でも簡単にできるものもある。今、教師はそういうものにチャレンジしていく姿勢が求められている。発表者がそれを実践し、チャレンジしている姿を見せることで他の先生の意識を変え、協力者を増やして行っているというところに共感を覚えた。
- ・ツールをうまく利用すれば、人とのつながり・学習者同士の学び合いを生み出すことができ、モチベーションアップにつなげることができる。教えることだけでなく、デジタルツールで行ったバーチャルな学習をリアルな教室や社会の場で使って活動する仕掛けを作っていくことが留学生を教える教師の仕事になっていく時代が来ている。

(阿字地道代)